

将来の「ご近所」と協定

長野・飯田市

東京・品川区



協定締結を喜び合う
森沢区長（中央）と
佐藤市長（右隣）
区議会公明党

災害時の相互援助を強化

大規模災害時に備え、東京都品川区と長野県飯田市は、物資提供や被災者の受け入れなど防災面に関する応援体制の強化を進めている。将来のリニア中央新幹線開通も見据えて両自治体は先ごろ、「災害時における相互援助に関する協定」を締結。品川区議会公明党（若林広毅幹事長）と飯田市議会公明党（永井一英代表）が粘り強く後押しした。

災害協定には、①応急物資（飲料水、食料品、生活必需品など）の供給②被災者の一時受け入れ③被災者に対する住宅などの提供④復旧対策に要する職員の派遣⑤応急対策用資材・器材の供給——などに相互協力することが盛り込まれた。

先ごろ品川区で開かれた協定締結式で、同区の森沢恭子区長は「全国各地で災害が激甚化・頻発化する中、自治体間の連携は非常に重要だ」と主張。飯田市の佐藤健市長は「災害時の助

け合いに加え、平時の交流も深めたい」と期待を込めた。

品川区と飯田市は、車移動で片道4時間ほどかかる距離に位置し、約10年前からイベントでの特産品販売や小学生同士の交流など地道な都市間交流を続けてきた。

今後、両自治体はリニア中央新幹線が開通すると、品川駅から飯田市を通る新たな「長野県駅（仮称）」間を約45分で往来できるようにするため、防災や文化、観光分野で助け合いの

- ・ 応急物資の供給
- ・ 被災者受け入れ
- ・ 復旧へ職員派遣

公明が調整役で懸け橋に

輪を広げることが模索してきた。

品川区議会公明党と飯田市議会公明党は議会質問を通じて、都市間交流の重要性を繰り返し強調。品川区議会では、阿久津広王議員が今年3月の定例会、塚本芳弘議員が同6月の定例会で、リニア中央新幹線の開通が首都直下地震や東海地震といった災害リスクに備える上で日本の大動脈の複線化につながることから、災害時の相互援助の強化を訴えていた。

一方、飯田市議会では、永井議員が同5月の定例会で、カフェと書店を融合した拠点「KAIDO」（品川区）のスペースを借り、飯田市に関する情報展示やPRイベントを実施していることを挙げ、一層、首都圏と南信州の交流を促す事業の重要性を求めている。

さらに、両会派は党の横のネットワークを生かし、協定締結に向けた自治体間の意見交換会を設ける調整役にも徹してきた。若林、永井の両議員は「さまざまな分野で『未来のご近所』と友好を広げるため、公明党が懸け橋になっていく」と思いを一つにする。